



You(あなた)とI(私)が互いに支え合い、尊重しながらともに歩んでいける社会をめざすため、男女共同参画について考えるコーナーです。

■問合せ 企画調整課政策推進係 TEL72-1111(内線219)

6月4日、桜山小学校で県男女共同参画センターが主催する「子どもたちの男女共同参画学びの広場推進事業」の保護者向けワークショップが行われました。

この事業は、子どもの頃から男女共同参画への理解を深めてもらおうと、県内の小・中学校で行われていて、児童・生徒、教職員、保護者を対象としたワークショップを一体的に実施し、地域全体の人権意識や男女平等意識の形成を目指しています。

■『Y.O.Uメッセージ』から『Iメッセージ』へ

参加者は、コーディネーターの高崎恵さんの出す指示のもと、簡単な絵を描きました。その後、グループに分かれて、お互いの絵を見せ合いながら「絵を描いているときの気持ち」と「絵を見せ合ったときの気持ち」を話し合いました。話し合いをするに当たり、高崎さんから「あなたの言うことは違うよ」というような『相手』を主語にして話す『Y.O.Uメッセージ』ではなく、「私はこう思います」というような『私』を主語にして自分の考えや気持ちを伝える『Iメッセージ』で話し合いをしてみましょう」と提案があり、参加者は『Iメッセージ』を意識しながら感想を言い合いました。「同じような絵の人もいれば、全然違う絵の人もいてお



もしかった」「考えることはそれぞれ違うと思った」など、自分たちが描いた絵から「みんなそれぞれちがう」ということを改めて実感していました。

高崎さんは「今日描いた絵は、みんなそれぞれ違っていたと思います。『ちがい』は、間違いや劣っていることではなく、一人ひとりが持つ『個性』という素晴らしいものだということを忘れないでください。そして、私たちは友達や親子など近い関係であるほど、言わなくてもわかるところがあるはずと思ってしまい『Y.O.Uメッセージ』になりがちですが、そうではなく『Iメッセージ』で自分の考え方や気持ちをしっかりと伝えていくことが大事です。これからは、子どもたちへの声掛けや学校・地域等の話し合いの場などでも『みんなちがう』ということと『Iメッセージ』を意識してほしいと思います」と参加者にメッセージを送りました。

■参加者の感想

- ・一人ひとり考え方や違ったのは当然で、違うからおもしろいと思いました。自分の子どもにも「こうあるべき」を押し付けず、良いところをたくさんほめてあげようと思います。
- ・日常生活の中で、自分が子どもにたくさんの『Y.O.Uメッセージ』を発していましたと気付きました。子どもは私のメッセージを聞いてくれなかつたのではなく、『Y.O.Uメッセージ』だから聞いてもらえたかったんだとわかりました。